

日本での交換留学

復旦大学

リュウ レイレイ

学籍番号 k690012

交換留学の一学期も、まもなく終わりを迎えます。今回の留学は、学部時代に続いて二度目の日本での交換留学となりました。日本語の会話や文章表現はいまだ十分に熟達しているとは言えませんが、このたび貴重な留学の機会をいただき、東京で快適かつ充実した一学期を過ごすことができました。また、多くの先生方や友人の温かいご支援のおかげで、史料調査や論文執筆にも専念することができました。

まず、お茶の水女子大学にこのような交換留学の機会をご提供いただいたことに、心より感謝申し上げます。とりわけ国際課の先生方には、さまざまな場面で多大なるご支援とご配慮を賜りました。市原先生、荒井先生には何度もご迷惑をおかけしてしまいましたが、その都度温かくご対応いただき、深く感謝しております。また、音羽館には快適な住環境をご提供いただき、管理人の方にも丁寧にご説明・ご対応いただきました。さらに、JASSO 奨学金のご支援をいただいたことで、日本での生活費の負担が大きく軽減され、研究に専念することができました。

また、お茶の水女子大学附属図書館には紹介状をご発行いただき、国際仏教学大学院大学において史料の閲覧・複写を行う機会を得ることができました。日程の調整や先方とのご連絡についても丁寧にご対応いただき、心より御礼申し上げます。

指導教員である戸川貴行先生にも、深く感謝申し上げます。戸川先生は終始、私の研究や日本での学業の進捗を気にかけてくださり、学会への参加をご紹介くださったほか、資料室での史料閲覧や複写にもご協力くださり、多くの貴重なご助言を賜りました。日本における先行研究への理解が十分ではなかった私にとって、先生のご指導はその不足を補う大きな支えとなりました。また、戸川先生のゼミの皆様にも、私の論文について数多くの貴重なご意見をいただき、活発な議論を通じて多くを学ぶことができました。なかでも、李遡彦さんには、研究発表や日常生活の両面においてさまざまなお力添えをいただき、心より感謝しております。

また、富嘉吟先生にも格別のご支援を賜りました。博物館の展覧会や史料調査先について数多くの貴重なご紹介・ご助言をいただき、先生のご推薦により静嘉堂文庫および国立公文書館において漢籍の校勘作業を行うことができました。二度にわたり紹介状をご作成いただいたおかげで、現在進めている校勘研究は大きな成果を得ることができました。

さらに、戸川先生のご紹介により、東京大学の佐川英治先生のゼミに参加する貴重な機会にも恵まれました。佐川先生ならびにゼミの先輩方には大変温かく迎えていただき、論文について数多くの貴重なご指導・ご助言をいただきました。また、毎週皆さんと一緒に昼食の時間は、普段一人で過ごすことの多い私にとって、他の学生の皆さんと交流を深める大切な機会となりました。佐川先生のゼミで過ごした時間は決して長くはありませんでしたが、多くの学生の皆様には数え切れないほどのご厚意をいただきました。特に、林子微さんには発表原稿やメールの添削、資料の借用や複写など、多方面にわたりご支援いただきました。楊丹丹さんには、史料編纂所で行われている正倉院文書に関するゼミをご紹介いただき、聴講の機会までご尽力いただきました。また、管凡誼さんには、論文草稿について丁寧にご助言いただいただけでなく、日本での日常生活についても多くの貴重な経験や知識を教えていただきました。

さらに、佐川先生には中村圭爾先生をご紹介いただきました。中村先生には、私の研究テーマに大きな影響を与えたご論文を中国語に翻訳することをご快諾いただき、深く感謝

申し上げます。

チューターの箱崎さんにも心より感謝申し上げます。毎月お忙しい中、時間を割いて面談の機会を設けてくださり、親身になって話を聞いてくださいました。箱崎さんと一緒に夕食を囲みながら、お互いの勉強や日常生活について語り合い、悩みや考えを共有した時間は、私にとって貴重な経験となりました。そのおかげで、日本語でのコミュニケーション能力が大きく向上しただけでなく、日本の大学や学界における生活や研究環境についても理解を深めることができました。

お茶の水女子大学で出会った中国人留学生の皆さん、そして今年ともに交換留学に参加した台湾からの交換留学生の皆さんにも感謝しております。ともに過ごした時間は決して長くはありませんでしたが、勉学や日常生活のさまざまな場面で温かく支えていただき、多くの励ましと助けをいただきました。

日本へ交換留学に来ている間も、中国の各大学の先生方、同級生、友人の皆さんから、ここでは書き尽くせないほど多くの助言や励まし、ご支援をいただきました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

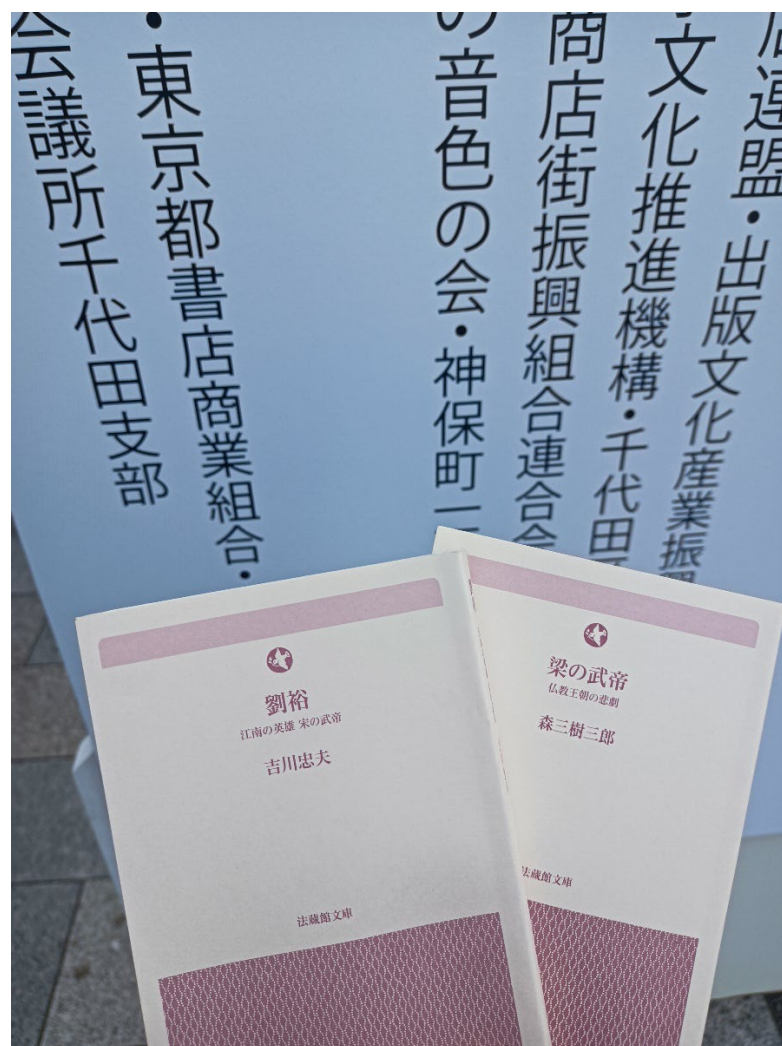
私は、自分自身を「時代の分岐点に立つ世代」の一人であると感じることがあります。そのような時代の中で、将来への不安や迷いを覚え、気持ちが沈むことも少なくありません。しかし、多くの方々から寄せられた温かい支えのおかげで、私は今もなお、自ら選んだ研究の道を歩み続けることができます。

日々の生活の中で感じた数え切れないほどの善意や思いやり、そして励ましは、私にとって何よりも大きな力となりました。それらがあったからこそ、この道を少しでも遠くまで歩み続けたいと思うことができました。

そして何より、この留学を通して私は改めて信じるようになりました。国境や利害、欲望や隔たりを越えたところには、なお失われることのない真理と人間の善性が存在しているのだということを。

「嵐の上には、満天の星空が広がっている。」

この言葉を胸に、これからも研究を続けていきたいと思います。



[illegible]